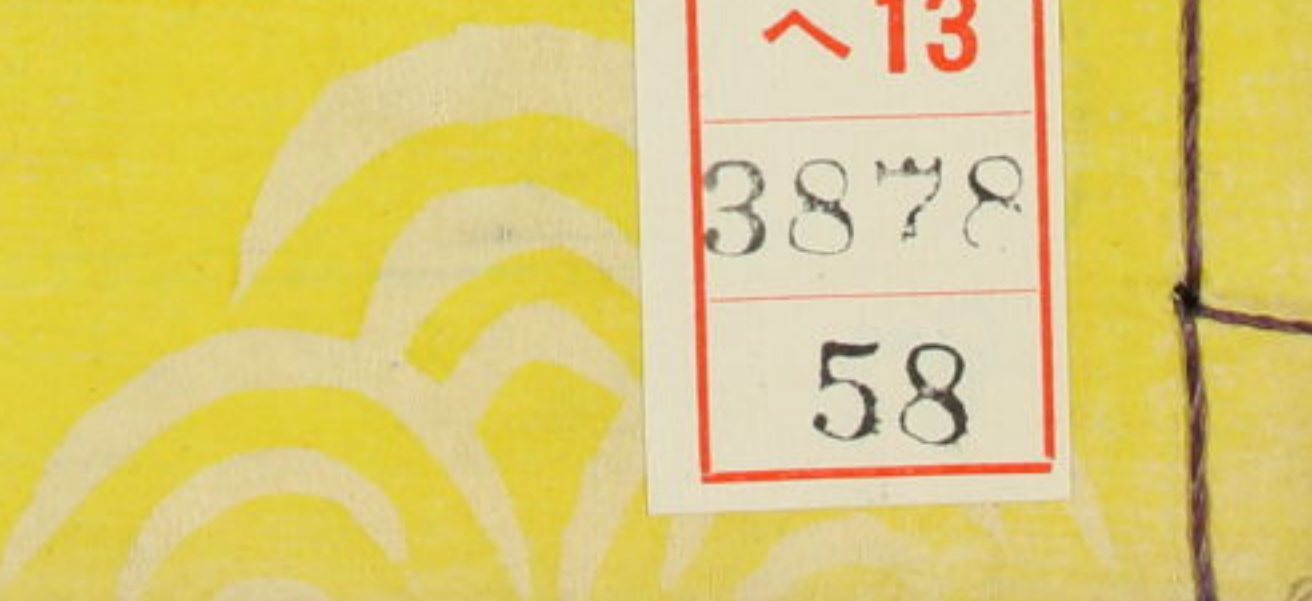




兒ト雷ライ也ヤ豪傑譚ゴウゲツタン
 下の卷シタノマキ
 篇シタノマキ九ク



^13
 3878
 58





三九

門 八 13
 3878
 卷 58

志方丸

一の巻

甘泉堂板



長門廿九の夜は
静かなる月夜に
おぼろげな月影が
窓の隙から射し
こめて来て
お二人の顔を
照らす

お二人は
静かに話を
交わし
ながら
お茶を
飲んでいた

お二人は
静かに話を
交わし
ながら
お茶を
飲んでいた

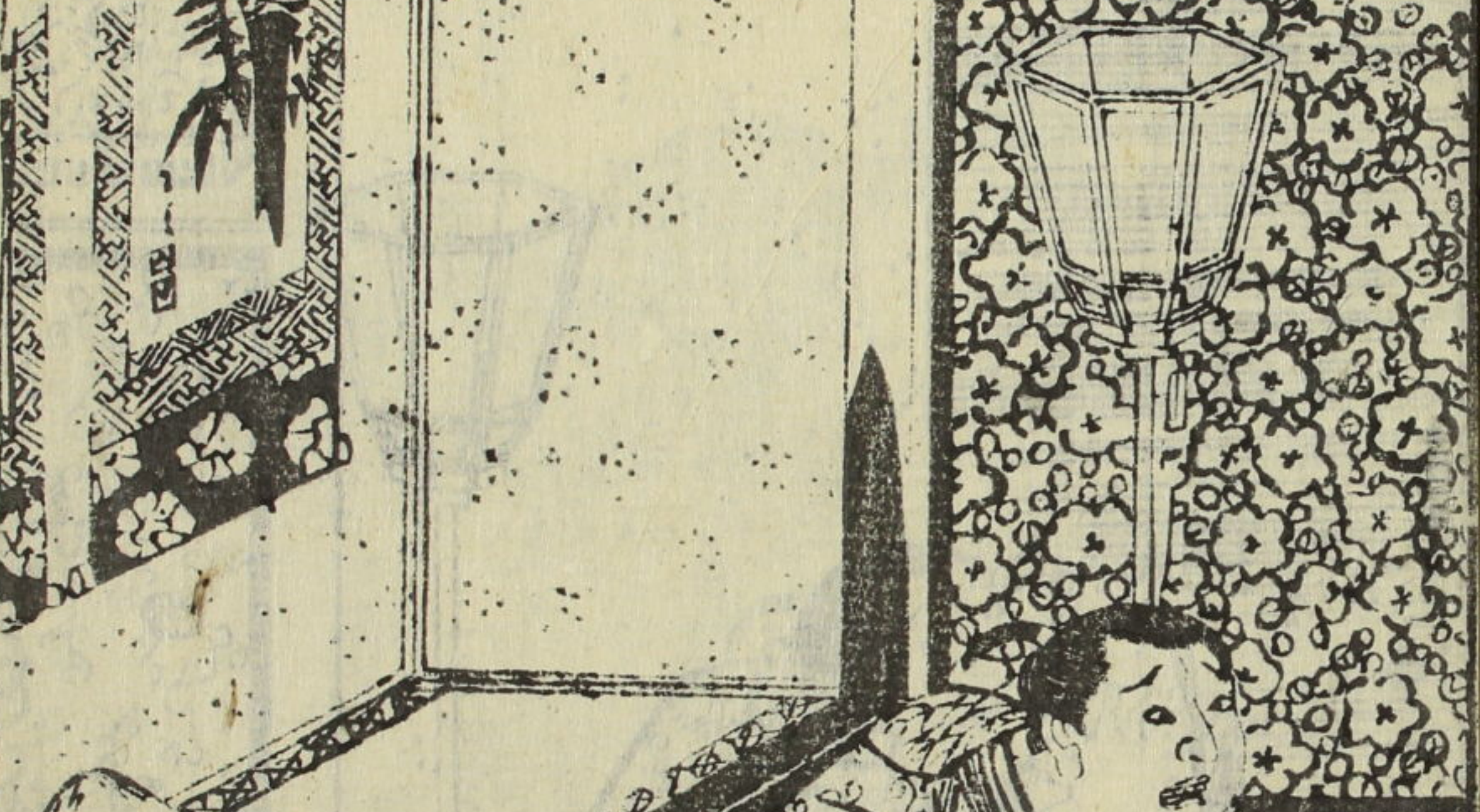
お二人は
静かに話を
交わし
ながら
お茶を
飲んでいた

平太の旦那様は、
 肉を食ふ事もおぼ
 しく、酒の飲む事
 も、人をたのむ事
 も、人から金をと
 る事もおぼしく、
 何事にも、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お

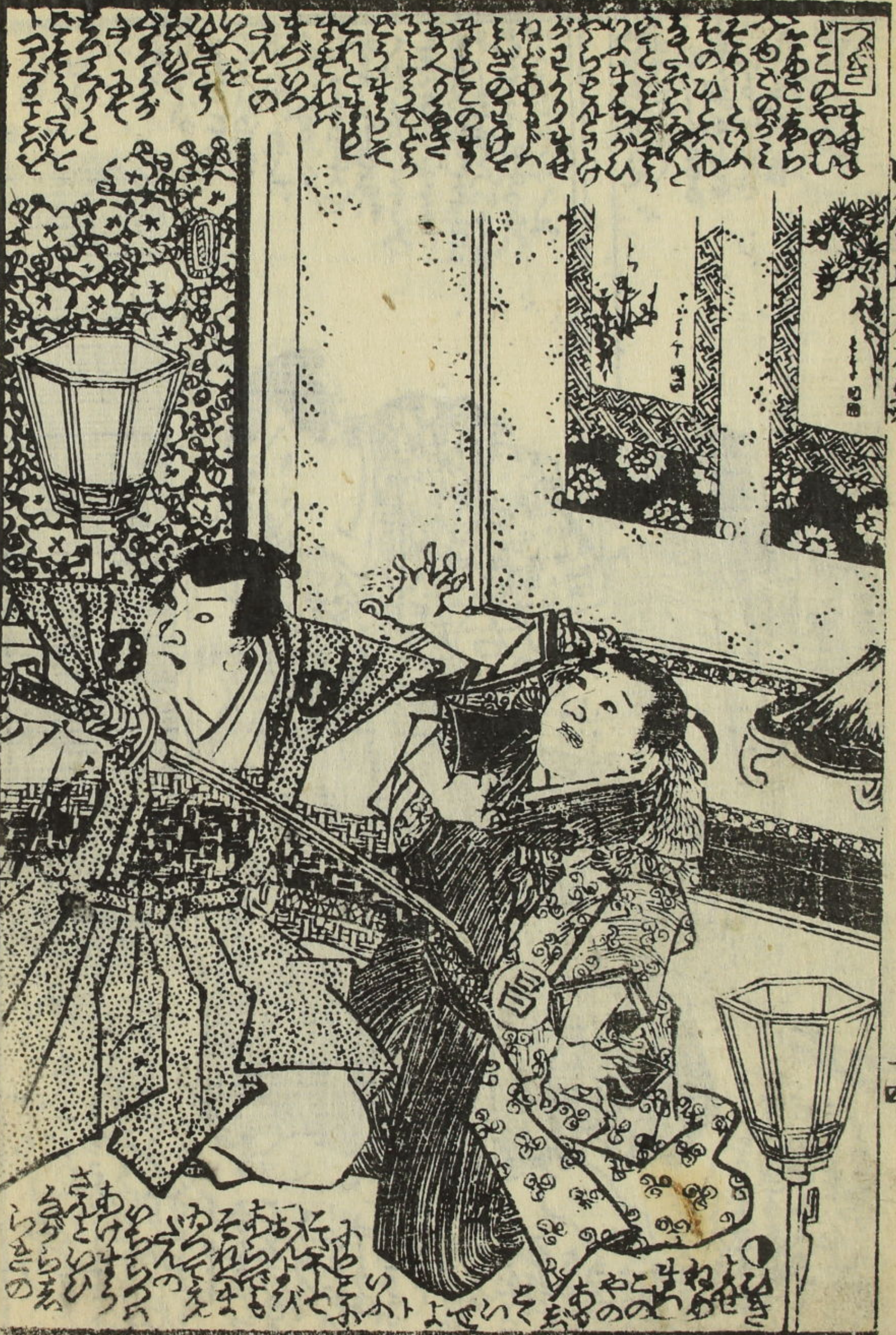


江戸の町、
 何事にも、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お

江戸の町、
 何事にも、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お



江戸の町、
 何事にも、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お
 ぼしく、おぼしく、
 おぼしく、おぼし
 く、おぼしく、お





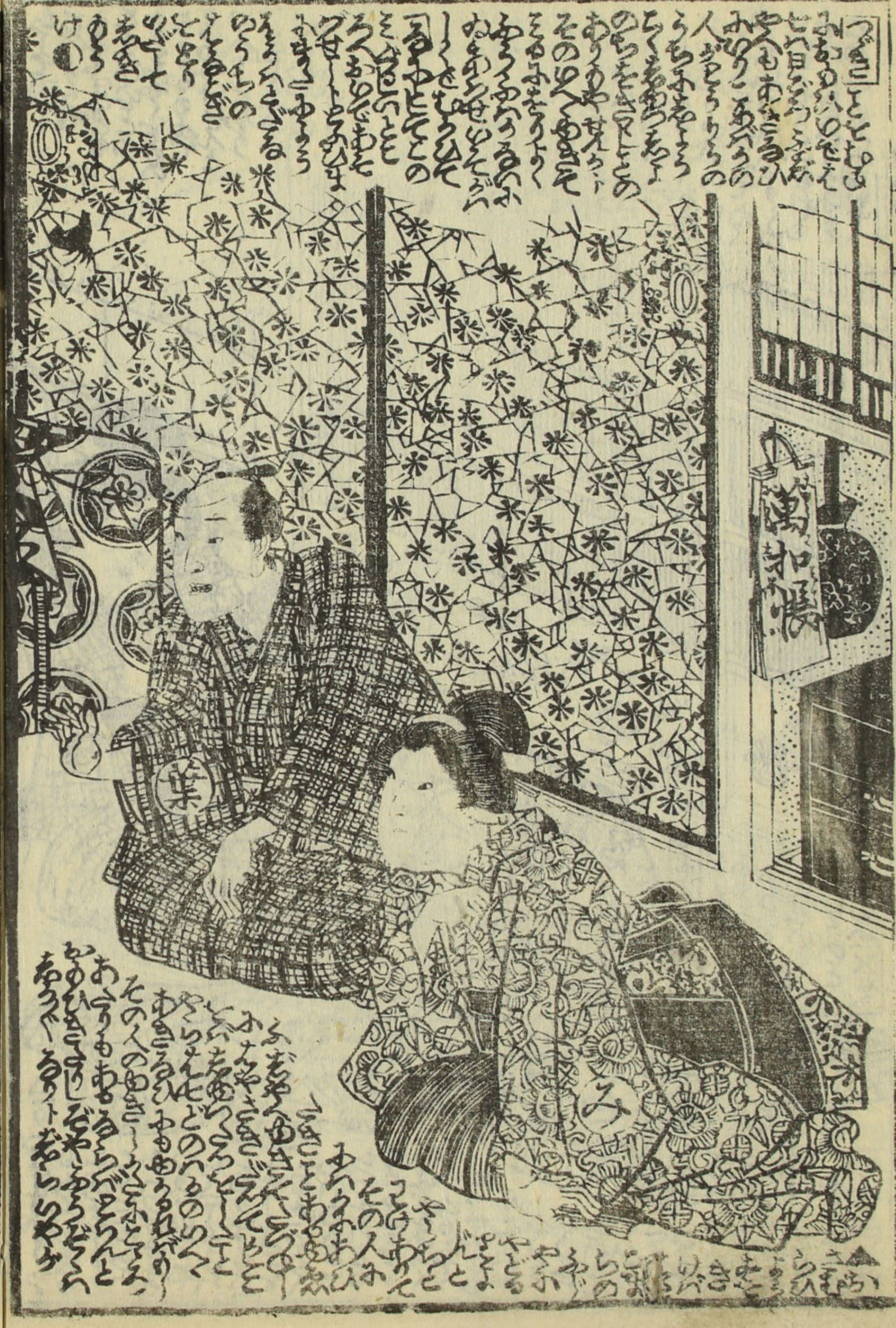
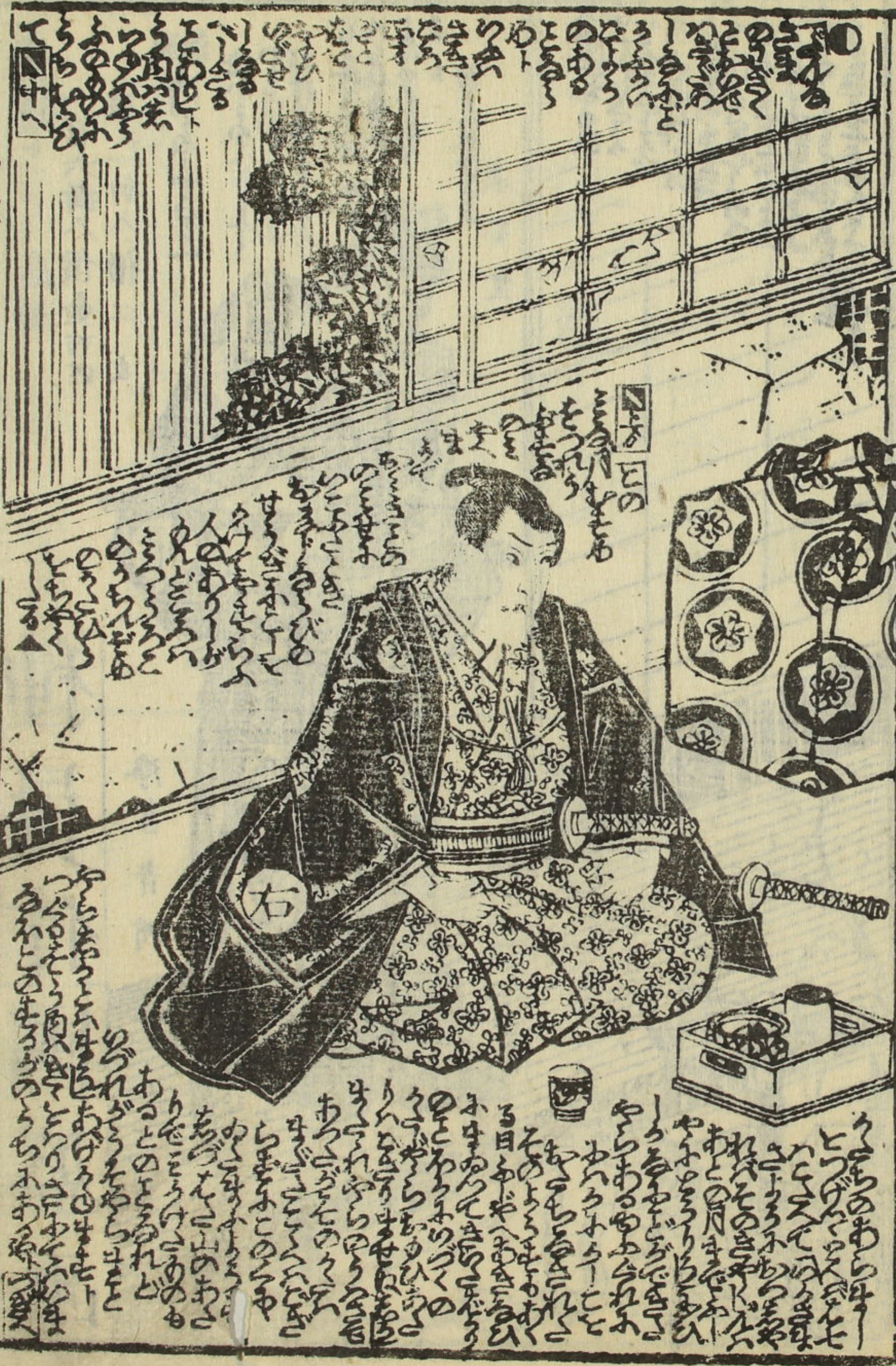
中



右

右

右



青樓十二月扇面
一管六對入價金百匹
同 一對入價三匹

風流の扇面

右の扇面は道
左の扇面は
永安堂



種員作國盛画

浄書青洲

右の扇面は道
左の扇面は
永安堂

一 兎雷也豪傑譚
四拾五篇

二 休草紙
拾五篇

一 凡俗浅間嶽
拾四篇

一 黄金水大盡盃
拾七篇

書肆
地本 問屋

芝神明前
和泉屋
市兵衛

銀座四丁目
同 支店

